

2022年度
第5回 理事会議事録

2022年 7月 12日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2022年度 第5回理事会議事録

1. 日 時 2022年 7月 12日 (火) 15:00～17:05
2. 場 所 鉄鋼会館 802号室
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 14名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 議案の審議
第1号議案 特別委員会設置の件
 - (6) 報告事項
 - 1) 委員会等の新体制について
 - 2) 意見交換 (陳情) 活動について
 - 3) フィットテスト実施者講習会
 - 4) 工場認定条件の保持状況確認について
 - 5) 「建築構造用鋼材便覧」の配布 (無償) について
 - 6) その他 ・賛助会員との懇談会
・ウエルディングショー関連
 - (7) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - 5) その他
 - (8) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は 14 名すべての理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名全員に出席いただいていることが報告された。

(3) 永井会長挨拶

永井会長より「本日から先日の総会で承認された新体制が本格的にスタートすることになります。まだまだ不慣れな部分もあり、長年にわたり協会活動に尽力されてきた米森相談役にも引き続き助言等をいただきたいと思います。我々の業界においては鋼材価格の高騰等厳しい環境があり、また世の中では、不穏な事件も起こっています。様々な難しい状況はありますが、皆様のご協力をいただきながら、協会運営を行っていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、第 3 回、第 4 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 議案の審議

1) 第 1 号議案：特別委員会設置の件

委員会規程第 2 条第 2 項（理事会の議決を得て会長の諮問機関として特別委員会を置くことが出来る）の規定に基づき、三つの特別委員会を設置する案について永井会長及び小貫専務理事より、議案書（P3）により説明された。

今期については、次の三つの特別委員会を設置して、今後取組むべき諸課題・テーマ等について議論をお願いしたい。

各委員会の主な検討事項は以下のとおり。

・中期ビジョン検討委員会

今後予想される社会構造の変化の中で、業界が持続的に発展していくために取組むべき中期課題を抽出・整理する。

・人材育成委員会

業界の将来を担う人材の育成に向けて、構成員企業の各階層別に必要な教育内容を整理するとともに、具体的な研修会・講習会を企画・開催する。

・創立 50 周年記念事業準備委員会

来年の全構協発足 50 周年に向けて、各種記念事業の実施を検討する。

本議案に対する質問、意見等はなく、原案どおり承認された。

(6) 報告事項

1) 委員会等の新体制について

委員会等の新体制に関し、全構協の役職員が関係する各委員会の担当について議案書(p5)に沿って説明され、了承された。

次に、運営委員会及び技術委員会の委員については各支部長の推薦に基づき、議案書(p6)のとおり提示され、委員長については、永井会長より次のとおり指名され、了承された。

○運営委員会 委員長： 妹尾理事〔中国支部長/岡山県〕

○技術委員会 委員長： 佐藤理事〔北海道支部長/北海道〕

また、各特別委員会の委員長及び委員は永井会長より次のとおり指名され、了承された。

◇中期ビジョン検討委員会：

委員長= 大島副会長、 委員= 佐藤、三浦、出雲 登尾、岩永 各理事

◇人材育成委員会：

委員長= 大竹副会長、 委員= 秋山、寺田、柏原、妹尾 各理事

◇創立 50 周年記念事業準備委員会：

委員長= 山本顧問、 委員= 玉木前顧問（三重県理事長）、三浦理事

委員会の運営と今後の予定について、以下の説明があった。

委員会は、理事会から諮問された事項を検討する組織であり、WGの設置を含め、理事会への報告と承認を前提に進める。

今後のスケジュール（第1回開催日について）については、以下の予定を前提に調整する。状況に応じ、Webでの出席も検討することとする。

- ・中期ビジョン検討委員会、人材育成委員会=8月8日（月）午後
- ・創立 50 周年記念事業準備委員会=8月8日（月）午後（*後日調整）
- ・技術委員会=8月25日（木）午後
- ・運営委員会=9月1日（木）午後

2) 意見交換（陳情）活動について

7月22日から予定されている鉄建協主体の意見交換会に関して、スケジュール、要望内容等について、議案書(p7-14)にそって平井総務部長より説明され、確認された。本年は、オブザーバー参加という位置付けであり、対応は事務局中心で進めることとした。

尚、本件に関し小貫専務理事より以下の内容が補足された。

従来この活動は、鉄建協と全構協の共同陳情という形で実施され要望書も連名となっていたが、今年はコロナ禍の影響もあり、鉄建協単独の活動としたい旨申入れがあり、全構協はオブザーバー参加となっている。全構協としては、意見交換の場でどの様な議論が行われているのかを確認するという立場で参加することになる。

3) フィットテスト実施者講習会

フィットテスト実施者講習会の開催に関しては、技術委員会の「安全衛生WG」でも検討してきたが、昨年度末に実施した講習会開催に関する各都道府県の方針調査結果等を踏まえ、全国規模で公平性を確保した形で実施するのは困難であり、全構協としては講習会を開催しない方向とする旨、新村技術部長より議案書 (p15-16)に沿って説明され、了承された。

4) 工場認定条件の保持状況確認について

「工場認定条件の保持状況確認調査」については、事業計画の中でも継続的な実施を約束しており、また昨年発生した資格不正事案への対応という観点も踏まえ、本年度も認定 3 年目の対象工場に対して、従来と同じ内容で実施する旨、議案書 (p17-23)にそって新村技術部長より説明され、了承された。

尚、事業計画の中では、資格不正事案への対応として「有資格者の一覧表の作成に関する確認」について検討を行うこととしており、その具体的な内容について技術委員会に検討をお願いしたい旨、永井会長より提案がなされた。今後、三役会でも議論の上、技術委員会に対して正式に依頼することとした。

5) 「建築構造用鋼材便覧」の配布（無償）について

全構協と鉄建協が共同保有している「建築鉄骨用鋼材便覧」の在庫の処理について、議案書 (p24)にそって新村技術部長より説明され、了承された。尚、全構協配布分については、7月13日から開催されるウエルディングショー会場で配布すること、具体的には協会出展ブース及び、溶接協会のブースで配布することが確認された。

6) その他

(賛助会員との懇談会)

9月29日に予定されている「賛助会員との懇談会」について、概要等が議案書 (p25-26)にそって平井総務部長より説明され、確認された。尚、本件に関しては、9月末の開催までに理事会にて協議する機会がないため、例年同様の開催方法を前提とし、具体的な内容は、三役に一任することが了承された。

(ウエルディングショーの件)

7月13日から開催される「ウエルディングショー」について、開催及び出展の概要、参加の方法について議案書 (p27-33)にそって中村総務担当部長より説明され確認された。

(企業業績実態調査に関する件)

例年実施している企業業績実態調査の件、回答率向上に関する協力の要請が小貫専務理事から行われ、確認された。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2022年7月6日時点の構成員数は、前回報告時(6月15日)より2社増加し、2,196社であること等が、議案書(p35-39)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2022年5月の鉄骨推計需要は35.6万トン(前年同月比9.3%減)であること、大型物件の動向等、今後の状況に注意が必要であることが、議案書(p40)により報告された。

3) 主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p41)により確認された。

4) 支部報告

[九州]

- ・手持ち工事量、稼働率ともに前回報告から大きな変化なし。地域的には沖縄県が低調。グレード別のバラツキが大きく、Hグレード以上は工事量もそこそこあるが、Mグレード以下は仕事量が少なく厳しい状況。
- ・Mグレード案件に商社が入ってきており、価格にも影響が出ている。
- ・鋼材価格は、相変わらず高騰しているが、納期については長いながらも、以前に比べるとやや予定が見える様になってきている。
- ・九州は今後、物件が多いが、現場労務の確保が課題。外国人労働者にも期待している。

[四国]

- ・仕事量は全体的に少なく、見積りは4県とも少ない傾向が続いている。少ない物件を取り合う形で競争になり価格も下落している。来年以降に期待している。

[中国]

- ・都市部の案件を中心に仕事をしているHグレードは仕事を確保しているが、Mグレード以下については、厳しい状況が続いている。
- ・中国地方については、県毎に仕事の取り方に違いがあるが、特に山陽側と山陰側では全く違う。但し、どちらの地域においても、材料の高騰で厳しい状況になっている。
- ・見積り案件についても、少ない傾向が出ており、今後に向けて、厳しい見通しを持っている。

[近畿]

- ・物件、稼働率の状況については、前回報告から大きな変化はない。
- ・案件が少ない中で、加工費の下落が問題になっているが、中小物件について商社・特約店の影響もあり、なかなか難しい。

- ・人材の確保については、コロナの影響が出ていた外国人労働者がやっと一部戻ってきている状況ではあるが、引き続き若い世代、女性人材の確保に努めていきたい。

〔中部〕

- ・物件は、グレードによりバラツキがある。
- ・材料高騰の影響で加工費が圧迫されており、受注に向けて価格は難しい局面となっている。仕事はそこそこ出ているが、採算が厳しい状況であり、好調さは感じられない。
- ・材料高騰に関して、昨年末、協会が経産省、国交省に提出した要望書は非常に効果的であった。

〔北陸〕

- ・物件、稼働率の状況については、前回報告から大きな変化はない。
- ・加工賃については、今は何とか維持しているが、踏ん張りながらも徐々に下落している状況であり注意を要する。
- ・役所物件も、材料の高騰、納期の長期化の影響もあり、不調となっているものが多い。

〔関東〕

- ・稼働率もそこそこ高く、価格面でも首都圏中心に比較的良い価格になっている状況。
- ・民間案件についても、スライド条項に関して、きちんと対応していきたい。
- ・材料高騰の問題は、日建連がパンフ等を配布して、周知に努めているが、特に地方では浸透にはまだ時間がかかると思われる。
- ・今後については、案件も予定通り出てくる見通しであり、忙しい状況。

〔東北〕

- ・全体の傾向は全国と同じ様な状況。
- ・Hグレードは仕事を確保しているが、M、Rグレードは目先の仕事をこなしている感じ。情報交換を行いながら、やりくりしているのが実態。
- ・役所も材料高騰の状況は認識しているが、予算との絡みもあり、なかなか難しい。

〔北海道〕

- ・見積りは低調な状態が継続。材料高騰の影響で加工賃が圧縮されている。
- ・材料メーカーが7-9月での値上げを発表した関係で、ゼネコン等が騒いでいる。
- ・価格の維持に向けて、共同受注をしながら受注の平準化に努めていく。

以上を受け、永井会長が以下のとおり総括された。

- ・各地区同じような厳しい状況がある。
- ・商社、鋼材店の動きが心配。中小物件の値崩れの背景に彼らがいることの影響が懸念される。
- ・材料高騰については、先の見通しが立たない状況の中で、どの様な対応が取れるのか非常に難しい。引き続き、色々と情報交換をさせていただきたい。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 島	嗣 雄
〃	大 竹	良 明
専務理事	小 貫	武
理 事	佐 藤	正 記
〃	三 浦	隆 宏
〃	秋 山	順 一
〃	寺 田	健 信
〃	柏 原	正 明
〃	出 雲	津 芳
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹
〃	五 月 女	久 和

理事総数	14名	うち出席者	14名
監事総数	2名	うち出席者	2名